

県立横浜緑ヶ丘学校 学校教育計画
(中期計画期間：平成 24 年度～平成 26 年度) 平成 26 年度改訂

課程・学科	全日制・普通科	校長名	田中 時義
-------	---------	-----	-------

1 果たすべき役割

広い視野をもち、新たな価値を創造する次世代を担うリーダーを育成する。

- 社会のリーダーとしての幅広い教養と確かな学力を身につけた生徒を育成する。
- 高い規範意識や倫理観を持ち、思いやりのあるリーダーとなる生徒を育成する。
- 社会の変化や自身の将来像を見極めながら未来を切り拓く力をもつ生徒を育成する。
- 目標を持って、自分自身の能力を育み、生涯にわたって成長しようとする意欲をもつ生徒を育成する。

2 教育目標

- 社会のリーダーとなる人材を育成して幅広い教養と確かな学力を身につけさせる。
 - ・ 大学教育を念頭に置いた学力養成のために授業を充実し生徒の希望に応じた多様で柔軟な教育活動を行う。
 - ・ 主体性・人間性の育成を目指して、学校行事や部活動等を通して生徒の自主的な活動を支援する。
- 開かれた学校づくりの観点から、学校関連組織や地域社会との関係を密にし、地域に愛される学校を目指す。

3 特色ある教育

- 学力向上進学重点校として、幅広い教養と確かな学力を身につけさせることで、生徒一人ひとりの進路実現をめざす。
 - ・ サイエンスキャラバン・文化講演会などをおとして、知的探究心を深め、広範な視野を持ち、総合的、科学的に探究する能力の育成を図る。
 - ・ TOEIC テストを全校生徒が毎年受験することをおとして、実践的英語力の育成を図る。
 - ・ 3年間にわたる「総合的な学習の時間」では、学年の枠を超えて多彩な講座を選択するテーマ別研修や、研究論文の作成をおとして、自ら問題を発見し、それを解決する力や、創造性を養うとともに、主体的に学ぶ力を育成する。
 - ・ 様々な分野の専門家を招へいし、緑高セミナーの開催をおとして、知的探究心を喚起し、多角的な視点から考える力の育成を図る。
 - ・ 部活動の活性化を図ることで、豊かな人間性や社会性を育む。

4 現状と課題

- 新学習指導要領に基づく教育課程編成に向けて、生徒の多様なニーズを踏まえた整備をより一層進めていく必要がある。
- 生徒のほとんどが大学への進学を果たしているが、合格状況等の数値の向上とともに目標とした進路実現となっているか検証する必要がある。
- 部活動の入部率が 90%を超えていることを踏まえ、活動時間の管理や安全面での指導を行うとともに、生徒の主体性をより一層高めていく必要がある。
- 高い満足度をもって充実した高校生活を送る生徒が多い一方、学習面や将来への不安等精神的な悩みを抱えている生徒もおり、個別支援体制を整備し、より一層の生徒個々の把握と組織的な対応が必要となってきた。

5 中期目標と主な方策

	視点	中期目標	目標達成に向けた主な方策
1	<p>幅広い学習ニーズに対応する多様で柔軟な教育の展開</p> <p><教育課程></p>	<p>生徒一人ひとりの多様な学習希望や進路希望をおさえた教育課程の充実化を進め、特に部活動と学業の両立を踏まえた教育環境づくりに努める。</p> <p>広げることと深めること</p>	<p>① 教育課程の実施状況の点検等による改善を進める。(1～3年目)</p> <p>② 部活動と両立した学習習慣を1年次から身に付けさせる。(1～3年目)</p>
2	<p>生徒一人ひとりに応じたきめ細かな教育支援</p> <p><生徒指導・支援></p>	<p>(1) 生徒の主体的な教科外活動(学校行事・部活動等)を支援する。</p> <p>(2) 生徒が安心して充実した高校生活を送れるよう個別支援体制を充実させる。</p> <p>(3) 生徒自らが快適な生活に向けて工夫改善を進めていけるよう支援する。</p> <p>自分自身→生徒会活動→社会貢献活動 視野を広げる、他者と積極的にかかわる。</p>	<p>(1) ①LHR 活動に討議や合意形成の機会を積極的に取り入れ、生徒の教科外活動への意識向上をはかる。(1～3年目)</p> <p>②部活動への積極的な参加を促すとともに、質の高い効率的な活動計画を進める。(1～3年目)</p> <p>(2)教育相談コーディネーターを中心として個別支援体制の充実を図る。(1～3年目)</p> <p>(3)挨拶やマナーについての日常的な指導から、生徒による自主的な呼びかけや活動となるよう支援する。(1～3年目)</p>
3	<p>確かな学力の向上</p> <p><学習指導・授業改善></p>	<p>(1) 幅広い教養と大学進学に必要な学力を身につけられるよう支援する。</p> <p>(2) 生徒が主体的・継続的に学ぶ意欲と向上心を持ち続けることができるよう授業研究を進める。</p>	<p>(1) ①小テストなどを積極的に行い基礎学力を身につけさせる。(1～3年目)</p> <p>②言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を身につけさせる授業の研究を進める。(1～3年目)</p> <p>③大学教育を念頭においた応用発展的な内容の授業を積極的に行う。(1～3年目)</p> <p>(2) ①生徒の学習意欲をさらに高め、自宅学習につなげられるよう授業の工夫を進める。(1～3年目)</p> <p>②定期的な課題の提出や発表の機会を作る。(1～3年目)</p>
4	<p>社会生活実践力の育成</p> <p><キャリア教育></p>	<p>(1) キャリア教育実践プログラムに基づき、生徒一人ひとりに応じたキャリア発達の支援を推進する。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりが目指す進路に向けてバランスのとれた高校生活を自己管理できるよう支援する。</p> <p>(3) 上級学校にとどまることなくその先にある社会人として職業にいかにかかるとい視座に立った進路指導体制を確立する。</p>	<p>(1) キャリア教育実践プログラムと学校生活の様々な取組との関連から捉え直し整理する。(1年目)</p> <p>(2) 学校生活の中で学習と課外活動とのバランスの取れた時間配分を指導する。(1～3年目)</p> <p>(3) インターンシップや職場訪問などの機会を増やす。(1～3年目)</p>

5	<p>地域との協働・連携による開かれた学校づくり</p> <p><地域等連携></p>	<p>(1) 後援組織である三徳会・牧陵会との連携をさらに深める。</p> <p>(2) 広報活動の一層の充実を図り、地域に開かれた風通しのよい学校を目指す。</p> <p>(3) 校舎の耐震建替に際して、後援三徳会、牧陵会及び地域住民の協力を得て、開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>(1) 後援三徳会、牧陵会と連携して創立周年事業などを円滑に進める。(1～3年目)</p> <p>(2) 牧陵会との連携による緑高セミナーや総合的な学習の時間などにおけるOBの活用を充実させる。(1～3年目)</p> <p>(3) 学校HPの充実や学校説明会の内容を充実させる。また、学校行事や緑高セミナー等について地域への広報活動を積極的に行う。(1～3年目)</p> <p>(4) 校舎の新築に際して、後援三徳会等の理解を得るとともに、学校づくりの参画を図る。(1～3年目)</p>
6	<p>信頼に根ざした学校づくりの推進</p> <p><学校運営・学校管理></p>	<p>(1) より円滑で活性化した学校運営を実現する。</p> <p>(2) より充実した教育活動を実現するために、校舎の立替・改修計画を実施する。</p> <p>(3) 防災マニュアルを整備し、生徒・職員の安全を確保する。</p> <p>(4) 日常的な危機管理体制を充実させる。</p>	<p>(1) 情報共有を推進し、職員が主体的にかかわることができような学校運営を推進する。(3年目)</p> <p>(2) 生徒、職員が生き生きと活動できる設備配置をする。(1～3年目)</p> <p>(2) 防災マニュアルに基づき避難訓練や防災備品の充実化を図る。(1～3年目)</p> <p>(3) 各分野における基本マニュアルの整理、整備や不祥事・事故防止の日常的なチェックを進める。(1～3年)</p>